公表用（要約版）

第５回　青森市総合計画審議会　第２分科会　議事要旨

【日　　時】平成 30 年 11 月 19 日（月）13 時 30 分～15 時 30 分
【場　　所】青森市役所本庁舎　３階　福利厚生室
【出 席 者】内海　隆 分科会長、加川　幸男 委員、柿崎　泰明 委員、
加藤　徳子 委員、佐藤　秀樹 委員
【欠 席 者】なし
【オブザーバー・傍聴者等】なし
【関係部局】佐々木教育委員会事務局理事教育次長事務取扱、山口青森市保健所副所長、長谷川浪岡事務所次長総務課長事務取扱、高野福祉部参事子育て支援課長事務取扱、古澤情報政策課長、杉山市民協働推進課長、鈴木健康づくり推進課長、木村地域スポーツ課長　計８名
【事 務 局】舘山企画調整課長、須藤企画調整課主幹、相馬企画調整課主査、齋藤企画調整課主査　計４名
【配付資料】
・次第
・資料1_基本構想（素案）に係る地域説明会・浪岡自治区地域協議会・学生説明会の結果について
・資料2_青森市総合計画基本構想（原案）
・資料3_各政策における「現状と課題」「基本方向」「主な取組」一覧表
・資料4_前期基本計画（素案）A4版　第2分科会関連部分
・資料5_推進体制
【会議の概要】
○資料 1 により基本構想（原案）への地域説明会等での意見反映状況を事務局から報告した後、資料 3 及び資料 4 により基本計画答申案（素案）について、各委員が意見を出し合った。

基本構想（素案）に係る地域説明会・浪岡自治区地域協議会・学生説明会の結果について

（委員）
・ここに書いている目標年次などの年度というのは 4 月スタートということでよろしいか。
（事務局）
・4 月から 3 月までということ。
（委員）
・基本計画を策定し、5 年で見直しを行うということは、前期基本計画期間が終わった段階で総括するという意味でよいか。

（事務局）
・前期基本計画期間後に総括するということである。
（委員）
・予期せぬ大震災等々があった場合には、計画期間の途中で見直しもあるのか。
（事務局）
・そういう事態になればあり得る。

ひと創り
政策名：子ども・子育て支援の充実の修正部分について
（委員）
・出生数の状況について確認だが、2017 年の合計特殊出生率は 1 月から 12 月までのことであり、年度の場合は、4 月から 3 月までのということでよろしいか。
（事務局）
・それでよい。
（委員）
・そうすると、2017 年度の出生数は 1,845 人となって 2,000 人を初めて下回ったことになっているが、2016 年度には既に 1,840 人だったと記憶している。
（事務局）
・2016 年度では、まだ 2,000 人台は下回ってはいなかった。
（委員）
・毎月、市のホームページを見ているが、2016 年度は確か 1,840 人で、2015 年度から 171 人減ったと記憶しており、2 年連続で 1,800 人を下回ってるはずである。確認していただきたい。
（事務局）
・事務局で数値を確認したときは、2016 年度は 2,011 人だったと記憶しているんですが、再度確認してみる。
（委員）
・2018 年 10 月時点での比較をすると、前年度より 60 人近く減っており、2018 年度は初めて 1,800 人を下回るかもしれないので、よく確認してください。
（事務局）
・確認し、数値の誤りがあれば修正させていただく。
（委員）
・子育て支援の充実の取組における《子どもの権利が保障される環境づくり》の二つ目の取組の中で、「医療、福祉、教育」という表記が一般的ということであったが。
（委員）
・幼保連携型認定こども園は厚生労働省では福祉に位置づけ、経済産業省が産業分類をし

た時は、学習支援事業（教育）に位置づけており、それぞれ立ち位置が違っている。
ここでは厚生労働省の要保護児童対策の取組に位置づけるということであれば、理解できる。

政策名：教育の充実の修正部分について
・質疑・意見等なし

政策名：スポーツの推進の修正部分について
（委員）
・よく整理できてきたと思う。資料 3 と資料 4 を照らし合わせて見ていた所、現状と課題について、「地域スポーツ状況」となっているが「地域スポーツの状況」ではないかと思う。細かい部分ではあるが、修正していただきたい。
（事務局）
・記載誤りであり、修正する。
（委員）
・独特の表記で主語がよく分からない時がある。
（委員）
・確かに。
（委員）
・本市出身、ゆかりの選手が活躍することは、郷土への誇りや愛着の面で考えるとやはり記載は難しいのか。アイデンティティーというか。
（事務局）
・本市ゆかりの選手が活躍した際には庁舎に垂れ幕を下げたりするが、本市出身の選手ではないのに、という声もある。確かに関連はあるものの、郷土愛にはなかなか結び付けにくいと考える。
（委員）
・例えば相撲だったら、青森県出身の力士が活躍していると嬉しくなる。
（委員）
・アイデンティティーを持たせるという意味もあるが。
（委員）
・県外に行ったときに、実は、あの人も青森県出身なんだよという話題にもなる。
（事務局）
・本市出身のかたであればいいが、高校時代だけ本市で過ごしたとかであれば、やはり難しい。
（委員）
・それは分かるが、話題の中で誰を引き合いに出すかにもよる。

（委員）
・県内から選手を集めるというポリシーを持った高校もあるが。
（委員）
・郷土への誇りという文言が無くなるのは残念に思う。
（委員）
・スポーツへの関心「など」とすると色々なものを含むということで、配慮はしてくれている。
（委員）
・当該文言がなくなってしまうのか。
（委員）
・野辺地町出身のサッカー選手が活躍したときには、町として選手を一面に飾った冊子を作っていたが。
（事務局）
・本市にも関連がある選手ではあるが、高校時代を本市で過ごしたという理由だけでは、なかなか難しい。
（委員）
・やはり微妙なところがあって難しい中で、色々配慮してくれたと思う。
・ワンストップ窓口の取組を分かりやすくするために文言を追記したというのは、確かにそのとおりだと思う。

政策名：文化芸術の推進の修正部分について
（委員）
・「進行」と「進展」にはどういう違いがあるのか。
（事務局）
・「進展」は大きく進んでいくようなイメージ、「進行」は徐々に進んでいくようなイメージであり、少子化の場合は「進行」を、高齢化の場合は「進展」を計画の中で用いている。
（委員）
・前後するが、「子ども・子育て支援の充実」の現状と課題の中で、「非婚化・晩婚化の進展」とあるが、ネガティブに捉えれらないよう、「近年の非婚・晩婚化」にした方がよいと思う。何々化には進んでるという意味合いも含まれる。

政策名：地域内連携・広域連携の推進の修正部分について
（委員）
・現状と課題について、基礎的自治体という言葉がよく分からない。
（事務局）
・地方自治法でいうところの各市町村のことを基礎的自治体としている。現在は事業レベ

ルでの連携はしているものの、自治体単位で動いている状態であるため、基礎的自治体が置かれている状況という説明をさせていただいた。
（委員）
・単位自治体とか基礎的自治体という言葉は使うものの、市民には馴染みがない言葉だと思うので、地方自治法では、というように追記した方がいいと思うが。
（委員）
・いま初めて聞いた。
（委員）
・やはり分かりやすいように追記した方が親切かもしれない。
（事務局）
・了解した。
（委員）
・前回指摘のあった関係人口に係る部分の説明を追記していただいたが、確認として、人を表す「方」の表記は平仮名でいいか。
（事務局）
・計画全体として統一した表記である。
（委員）
・現状と課題について、「気候や地理的条件を理由に、優先的に選ばれない」という部分が気になるが、気候や地理的条件をいい方向に捉えてもらえれば本市を一番最初に選んでくれるかもしれない。

ひと創り
政策名：子ども・子育て支援の充実における施策の目標とする指標について
（委員）
・3 ページの指標「乳幼児健康診査の受診率」について、4 回ある健診のうち、どれか 1 回でも受診すればカウントされるのか。
（事務局）
・4 か月児から 3 歳児までの健診を全て受診した場合にカウントされる。
（委員）
・全ての健診の受診率が 97.9%とうことか。
（事務局）
・2017 年度の数字を見ると、4 か月児健診の受診率が 96.8%、7 か月児健診が 99.2%、1 歳 6 か月児健診が 98.3%、3 歳児健診が 97.5%であり、健診区分において受診率の増減がある。全体の受診率を均一にしていきたいという意味で 97.9%としている。
（委員）
・想像以上の受診率で良かったが、誤解されないよう、指標の説明を分かりやすくした方

がいい。
（事務局）
・健診の意味合いからすると、それぞれの発達の段階に応じて、いち早く異常などを発見し、対処していくということで、全ての健診区分において受診することが望ましいと考えている。
（委員）
・もちろんそうだが、全ての健診を受診した乳幼児がこれ位居るという説明にした方がいい。
（委員）
・子ども子育て会議では、健診区分全体の受診率を使った気がするが。
（保健部）
・当該指標の基準値は、健診区分ごとの受診率を足し上げるのではなくて、4 つの区分の受診者数の合計を、4 つの区分の対象者数の合計で割り返して 97.9%という数字を算出しており、各健診の受診率を単純に平均しているものではない。
（委員）
・教育行政事務評価であれば、健診区分ごとにデータを見て、受診率が低い健診に視点を置きつつ、100%を目標値にするということがある。
（委員）
・受診率が低い健診に絞った方が、読む側からすると、もう少し高めようという目標値になる気がする。
（委員）
・毎年度行政評価をする場合に、やはり、その変化を見ていく必要があると考える。
（委員）
・特に乳幼児を受け入れる立場からすると、虐待予防とまでは言わないが、未受診の保護者に対して声掛けができたりする。
（委員）
・そういう意味でも大事なことだと思う。
（委員）
・健診区分ごとのデータ化はできるか。
（保健部）
・健診区分により受診率の差はあるものの、各区分ごとに目標を立てるということではなくて、市としては、乳幼児健診全般を通して目標値を同じにしたいと考えており、未受診の乳幼児についても全員の状況を把握している。
（委員）
・向こう 5 年間、10 年間の計画として数値目標を立てて、行政評価をしていくうえで、健診区分ごとにデータ化が必要ではないかという意味で言っている。データを持っているの

であれば良いが、いずれにしてもそういう意見はあったということで。
・指標の基準年度について、ほとんどが 2017 年度であり、すべての指標中に盛り込まなくてもよいのではないか。
（事務局）
・基準年度が異なる指標もある。
（委員）
・計画全体の指標が分からないため判断しかねるが、第 2 分科会では 1 個か 2 個しかない。
（事務局）
・年を基準とした指標もあるが。
（委員）
・2017 年度を基準にしたと明記した方がいいのではないか。
（事務局）
・2017 年度の実績値を取れる指標もあれば、計画策定の段階で集計が間に合わず、2016 年度としている指標もある。
（委員）
・第 2 分科会でいくと 20 ページの指標だけが 2017 年度を基準としていない。どちらでも構わないが、全てに記載しなくても。
（委員）
・乳幼児の健康診査受診率の指標は基準値がパーセントであり、割と判断しやすいが、子ども支援の充実の指標は基準値を人数としているものがある。子どもの数がどんどん変わっていく中で、どこまで人数を基準として見ていけるのか疑問に思う。
（事務局）
・子どもの数が減少していく中で、どこまで人口減少の影響を指標に反映させるかということもあり、割合とすることも不可能ではないが、今の段階では、現在も集計している施設を利用した児童数を基準値とさせていただいた。
（委員）
・受診率であれば 100%がいいと誰でも言えるが、この 70 万人という掴みきれない数字が基準値であれば、理想的な目標値が何人なのか分からない。施設によって利用対象者が異なるため延べ人数にしていると思うが、この指標を持ってきた意味がよく分からない。
（委員）
・教育事務評価においても比率で出している。子どもの人口が減っている中で基準値を人数にすることは、指標として適さないと考える。よって、この指標についても利用者数ではなく比率などの方がいい。図書館の利用や講座についても同じことが言える。
・二つ目の指標の発言回数は年 3 回ということでよいか。
（事務局）
・年間ということでよい。

（委員）
・そうであれば、年であることがわかるように工夫して欲しい。
（委員）
・他の指標はないものか。
（委員）
・利用率ではない指標のことか。
（委員）
・子ども会議委員の意見の表明回数が 3 回だと言われても、その回数に何の意味があるのか、どう捉えていいのか分からないため、違う指標はないものかと思っている。
（委員）
・子どもの意見表明の場は、子ども会議しかないのか。
（事務局）
・子ども支援の充実の施策の進捗を図るうえでは、子どもが自ら考え主体的に活動できるという部分に重きを置くことになり、自分で考え主体的に活動することはどういうことかとなると、自分の意見として考えたものを発表することであると考える。市では、意見を発表できる場として子ども会議を設定しているので、そこでの発表の回数が増えることによって施策の進捗を計れるのではないかと考え、青森市子ども会議委員の意見表明回数という指標を置いている。目標値を考えるに当たって、今の実績である 3 回がいくらになれば良いのかという部分は、今後、検討することになる。
（委員）
・もう一つ言えば、子ども会議の委員はごく限られた人数であるため、発表回数といわれても実感が沸かない。それよりは、子ども支援の充実という意味で、支援を必要としている子どもをどう助けたいとか、どう支援できたかなどの方が。何かもっと困っているところがあるのではないかと思うが。
（委員）
・本市以外に子どもの権利宣言をしている自治体は数少ない。意見表明の場としては、小規模のものはあるかもしれないが、青森市子ども会議だけが市が認知している学校単位での公的な意見表明の場であるはずだから。
（委員）
・実際に参画している人数が多いわけではないので、子ども会議の委員の意見表明だけではなく、子どもの権利擁護委員への相談件数などが指標として加われば、もう少し分かりやすいと思う。あるいは、教育委員会の取組ともリンクできるような気はするが。どうしても子ども支援だけでは見えてこない。
（福祉部）
・子どもの権利擁護委員の相談件数を指標とする場合、相談件数が増えればいいのか、減ればいいのかという部分の判断が難しく、指標としては設定しにくい。

・子どもの活動拠点を利用した児童数の指標は、いわゆる共稼ぎ家庭がどんどん増えてきているので、現状では放課後児童会の利用者が増えている状況であり、基準値を人数としてもそれほど目標値に影響がないと考える。割合にする場合、どう考えればいいかが難しいところ。
（委員）
・この指標についても、目標値の設定は困難であると思う。子どもの活動拠点を必要としていない子どもを無理に行かせるというのもおかしな話だ。
（福祉部）
・現状、利用者が伸びてきているので
（委員）
・狭い部屋に子どもが詰め込まれて、先生たちがいつも注意しているような状況を見ているから、関係者から言わせると、利用人数ではなく、環境が整っているなどという利用した後の満足度の方がいい。
（委員）
・利用者数は難しいかもしれない。施設数ではいかがか。
（委員）
・放課後児童会であれば、学校によってないところもある。
（福祉部）
・学校内になくても学校の外には必ずあるので、全学校に放課後児童会はあることになる。
（委員）
・放課後児童会は教育委員会管轄だが、児童館は違うと思ったが。
（福祉部）
・放課後児童会と児童館は福祉部の子育て支援課が所管している。放課後子ども教室は教育委員会の所管となる。
（委員）
・子どもの数が減っているので、利用者数の多少だけで判断できない部分ではある。そういう意味では相談件数も同じ。家庭における努力なしに放課後児童会などの施設を利用するのが果たしていいのか。
（委員）
・別に必要ないと言っている人も
（委員）
・指標として毎年度チェックしていくときに、もっとも誤解がなくて進捗を計るに相応しいものは何であるかを考えていくことがここでは大事である。出てきた結果に振り回されることが多いため、講座などに関する指標については、対象の何割が利用したかというような割合で出してもらうことがよくある。

（委員）
・指標に反映させるのは困難かもしれないが、意見表明の場としては、毎年、児童館で発表会のようなものがある。子どもたちにとっては、ある意味で意見表明の一環にもなっているような気がするので、ポジティブな評価をしてあげられるような部分も作ってあげてもいいと思うが。
・国全体で言えることだが、女性の就業率が高くなることにより、放課後児童会の利用者数が増えているだけで、子どもたちが望んで放課後児童会に行きたいわけではない。働かざるを得ない中で、そういう受け皿整備が必要だということを言っているだけで。そういう意味では利用者数が増えることで支援が充実しているかというと、なかなか厳しい。
（委員）
・大人の事情の数値な気がする。
（委員）
・要するに市民のニーズに応える形で行政としてやっているだろうから。あまり細々した指標を入れるのはどうかと思うが。一番認知されている子ども会議は、市で予算を付けて運営していると思うが、意見表明の回数が何回であればいいのかという議論にされるところが困る部分ではある。
（委員）
・わずか 20 数人しか居ない子ども会議のメンバーが月 1 回、土曜日とかに集まって開催しているものを、これ以上に増やすというのも難しいと思う。
（委員）
・子どもも忙しい。
（委員）
・意見表明の回数よりも適した指標があるかというと、難しい。
・子どもの活動拠点を利用した児童数は、拠点数を指標としてはどうか。
（福祉部）
・指標を拠点数とすることもできるが、現在、放課後児童会が 4 箇所あることろを 1 箇所にまとめて整備しており、拠点数が減ることになるが。
（委員）
・その場合は理由を記載すればよい。利用者数とすると、子どもの数が減っていくこと、それから利用する子どもが多くいるかと言われると疑問なところもあるので。
（委員）
・満足度までとは言はないが、毎年、利用する子どもや親にアンケートを取ってみては。
（福祉部）
・現状では、放課後児童会に入所を希望する子どもを 100％受け入れているため、100％の受入れを継続するという目標値も考えられる。

（委員）
・待機児童のような子どもがいないのは良いと思うが、次に何ができるかといったら、やぱり満足度を上げること、環境を整えてあげることだと思うが。
（内海分科会長）
・支援する中での環境であるとか、何を指標とするかを決めないとまずい。後で再考することにして、先に進みましょう。

政策名：教育の充実における施策の目標とする指標について
（委員）
・教育の充実における指標はすごく分かりやすく良くまとまっていると思う。
・子ども支援の充実でも同じような指標、例えば、子ども会議のメンバーが意見を表明したのであれば、その意見表明に対しての彼らの満足度であるとか、提言が聞き入れられたかどうかということが色々出てくると思う。
（委員）
・定量性ではなく、定性性ということか。
（委員）
・社会教育の推進における、市民一人が１年間に図書館や市民センター等を利用した回数という指標も、市民の人口で割り戻しているのが分かりやすい。
（委員）
・数字にイメージが湧くので分かりやすい。
（委員）
・利用者数の満足度のようなものが出てくればいい。利用者が減ろうが増えようが、満足度を計ることができれば。そういうデータはあるのか。
（事務局）
・そういうデータは取っていない。
（委員）
・放課後子ども教室ではアンケートを取っているはず。
（委員）
・11 ページの社会教育の推進の指標は、年齢に関係なく市の人口で利用者数を割っているから分かりやすい。

政策名：スポーツの推進における施策の目標とする指標について
（委員）
・競技力の向上の指標としているスポーツ賞については、個人競技と団体競技があるが、賞の割り振りはどう形でされるのか。

（事務局）
・スポーツ賞に関しては、「人」という扱いにしている。
（委員）
・5 人で行う団体競技であれば、受賞者に 5 人加えるということか。
（事務局）
・これまでは受賞件数という指標を置いていたが、今回、受賞者数とさせていただいた。
（経済部）
・98 人は基本、個人競技だけの受賞者数である。
（委員）
・個人競技と団体競技を併記したらどうか。
（委員）
・受賞数をカウントするのは難しくない、2 つあってもいいかもしれない。
（委員）
・団体競技も結構あるわけだから、入れた方がいい。
（委員）
・スポーツ賞は市が授与する賞なのであれば、実績をあげるためにいくらでも授与できるのではと思うが。
（委員）
・東北大会以上で活躍したなど、基準がある。
（委員）
・基準あるということであれば。
（委員）
・受賞の基準を確認したい。
（経済部）
・スポーツ賞は国際大会で優秀な成績を収めたことと、国内の大会で 1 位になること。スポーツ奨励賞は東北大会 1 位か、全国大会で 3 位になることが受賞の基準である。
（委員）
・具体的な基準があるのであれば、そう書いた方がいい。
（委員）
・毎年度受賞できるのか。
（経済部）
・できる。
（委員）
・個人競技でも団体競技でも受賞基準に該当することもあると思うが、その場合のカウント方法を教えて欲しい。

（経済部）
・例えば高校の陸上競技など、団体競技で受賞したかたが、個人競技でも受賞することがある。
（委員）
・団体競技も入れると確実に 3 桁はいくと思う。
・プロスポーツの観客数も平均だから出せると思う。
・スポーツ施設利用者数も施設の数にもよるが、休館している場合は利用者が減る。それであれば、市民が多く利用している施設を特定化して見た方がいいと思う。
（委員）
・指標の数値は、スポーツとしての施設利用者ということでよいか。
（事務局）
・スポーツ施設の利用者は体育施設の利用者であるため、スポーツのみならず、運動に来た人などを含めている。
（委員）
・施策のタイトルがスポーツ人口の拡大であるから、例えば、健康福祉の面での視点もあるが、ここではやぱりスポーツということか。
（委員）
・夏休みにラジオ体操で施設を利用した場合はカウントしないと。
（委員）
・スポーツ施設の利用者数とすると、これまで同様、数字の意味が良く分からなくなる。
（委員）
・定点観測で、市民体育館など特定の施設に限定してやれば、時間帯別の利用者数がデータ化でき、変化がわかると思う。全ての施設とした場合、施設数が多い方が有利になっていしまう。
・市の中核になるような施設の利用者数を見ていけば、凡そ、市民の健康度を計ることができる気はするが。

政策名：文化芸術の推進における施策の目標とする指標について
（委員）
・18 ページの文化芸術活動の推進の指標「市民 1 人が 1 年間に文化施設を利用した回数」の方がやはり分かりやすい。スポーツ施設の利用者数も、市民 1 人がどれくらいスポーツ施設を利用したかであれば、回数が増えると、それだけスポーツ人口が増えたというイメージにも繋がる。人を回数に置き換えるなど、統一した基準値というか捉え方のほうが分かりやすいと感じた。
（委員）
・先ほどは考え及ばなかったが、この指標は市民以外の利用者を含めてカウントしている

と思うが。
（事務局）
・確かに御指摘のとおりだが、実際に来館されるかたを市民か市民以外かで分けるとなったとき、さまざまな手続き等を変える必要があり、現状では、当該数字を使うしかないということで置かせていただいた。
（委員）
・市民だけを数えたという誤解を与えないよう、そのことを書かないといけないと思う。
・県立美術館の来館者は数字に含まないと思うが、三内丸山遺跡は含めて良いのか。
（事務局）
・三内丸山遺跡は県の所管になる。
（委員）
・三内丸山遺跡の来館者を含めているということか。県立美術館の場合も含むのか。
（事務局）
・三内丸山遺跡の来館者は数字に含めていない。あくまで市有施設である小牧野遺跡や青森市美術展示館などの来館者をカウントしている。
（委員）
・市民だけをカウントするのはすごく難しい。
（教育委員会事務局）
・確かに県外市外のかたも利用されることにはなるが、指標として考えたときに市民に多く利用して欲しいという意味で「市民 1 人が」としている。一方、市有施設の活用という面で、県外のかたが含まれてたとしても、指標ということを考えると、ある程度割り返した数字にして、それを伸ばしていく。この指標にはそういう両方の意味を含んでいるため、教育委員会の中でも議論あったものの、分子を利用者、分母を市の人口にさせていただいた。
（委員）
・そこは理解できる。例えば県内他市で、北海道や九州のように県内外から集めようというレベルでやっているところもある。そういうことを考えると難しい。
・アリーナが出来た後は、ビジネスとして国内外から人を集めようという動きでやろうとしているから、施設利用者が市民の数を超える可能性もある。
・施設の主な対象が市民かどうかということ。いずれにしても、基準をバラバラにしないで、市の人口で割るならそれで統一するという形だと、あとで説明が効く。
・20 ページの文化財の保存・活用の指標だけが基準値を 3 年間の平均としている。分からないことはないが、今後、入館者が大きく減ることもあり得る。
（委員）
・市民の利用ということもあるが、色々なかたに利用していただいた小牧野遺跡等について、市民の数で割るのはどうかということで、実数を記載している。3 か年の平均とした

理由であるが、入館者数はその年々のイベントによる影響が大きく、2017 年度は天候にも恵まれ、小牧野遺跡及び小牧野資料館の来館者が非常に多かったということもあった。それを考えると、2017 年度の実績を使うのはどうかという意見もあり、年度によりある程度ばらつきはあるものの、小牧野遺跡の資料館やまほろばの施設が完成した 2015 年度から直近までの 3 か年平均を基準値とし、ここを発射台にしたいということで置かせていただいた。

（委員）

・行政評価の際は、平均ではなく 2018 年度の実績とするということか。

（教育委員会）

・あくまで基準値いうことで、目標値についても、これまでの入館者数の増減を見据えてこれから検討していきたい。

・発射台となる基準値については、2015 年度から 3 年間の平均値を使わせていただきたい。

（委員）

・少し違和感を感じるが。今後、目標値について議論することになるかと思う。

政策名：地域内連携・広域連携の推進における施策の目標とする指標について

（委員）

・指標について、参加者数は事業数の多い少ないによって参加者も変動する。

・今年は 20 の事業が、来年度は 30 くらいやるとなった場合、参加者がどっと増える。

・行政評価としては、事業後に参加者がどう変わったかということを評価しなきゃいけない。数だけだと難しい。

（委員）

・特に青函交流は数が難しい。各年で相互の市でやるものだから、青森側の各競技の参加者数が青森市開催は増え、函館に行く時はぎりぎりの人数で行ったりという感じで、人数の単純な足し算だと 1 年ごとに高くなったり低くなったりになる。

（委員）

・指標として出す場合、みなさんが納得していただく指標の出し方というか。

（委員）

・なんらかの形で件数との割戻しをするとか、なにか統一した基準があればいい。増えたり減ったりという参加者数だと判断しづらい。

（委員）

・700 人くらいしか来ないと踏んで、赤字覚悟でやって 950 人来ました。そういう方法で来てもらうよりしょうがない。

・男女共同参画も青函は行ったり来たりだが、誤解を招かないようないい方法はないか。

（委員）

・両方足すという方法もある。函館の参加者もカウントするような。

（委員）
・22 ページの市民活動団体との連携は、市が市民活動団体と連携した数であり、それ以外に NPO 同士などが連携してやるものある。
・市が後押しする程度で、自主的・主体的に市民レベルが連携して活動したほうがいい。
・その数字のほうがあれば、もっと挑戦する街という意味合いになる。そういうものを把握するのは難しいのか。
・行政評価は大変。どう読み取るのか。大変だと思う。
・全体を通してやっぱり物差しはある程度きちんと決めたほうがいい。
・ペンディング状態だった 4 ページ子どもの活動拠点を利用した児童数についてどうするか。
（事務局）
・４ページの子どもの活動拠点の部分ですが、100％が通常で希望者に対しての受入れが実際 100％ではあるが、100％に至る経緯の中でどうしても施設が無くて困っている時期とか、春までどうしようと苦慮しているのを見ているので、いつ 100％が崩れるかもしれないという中で、受入体制として 100％を維持し続けるっていうのは指標としてあってもいいのではないかと思う。
（福祉部）
・放課後児童会はずっと 100％で、こども教室も入りたいといえば通常普通に入れる、児童館の登録とか自由に遊びに来た子も拒まないで全部入れるので、そういった面では 100％とするのは可能。
（委員）
・受入可能な施設の受入れている割合。
（福祉部）
・入所を希望されるかたの入所割合。
（委員）
・出してみたほうが満足度にも繋がる。
（経済部）
・16 ページ、スポーツ賞・スポーツ奨励賞については確認したところ 98「人」という単位で、1 団体も「人」としてみているので、訂正させていただく。
（委員）
・お願いします。
・指標について、今後の総括までに全部できますか。他の分化会はどうなっているか。
（事務局）
・第 2 分科会が皮切りで今週中に他の分科会を開催する。
（委員）
・指標は難しく、アウトカム評価をしようものならもうグチャグチャになる。

・でも満足度はアウトカム評価で、役所がやる満足度や数値目標は、何人満足して何人満足しなかったか。
・今回はこれが皮切りだということなので、他の分科会でもいろんな議論はあると思うが、「物差し」としてはきちんとしておいたほうがいいという意見があったということで。
・指標が絡むと、予算にも関わってくる。目標に達せずとも決して怠けているわけではないと言わないといけなくなる。

その他

（分科会長）
・分科会としては最後なので、皆さんから意見があってもなくても一言ずつ頂戴したい。
（委員）
・市民センターが 11 館あるので、各センターそれぞれいろんな施設があって活動内容や特色があるので、集客数とかの違いなどの結果が判れば非常に面白いと思う。
（委員）
・青森市はたくさんの問題を抱えながらも、職員を含め一所懸命青森市を良くしようという気持ちでいる方が多いと委員になってよくわかった。
・青森が今後、住み易いずっと住み続けたい、すばらしい街になるような取組で、私自身もそういう気持ちを持って、少子高齢化・人口減少を食い止める何かいい方法が無いかをこれからも考えていきたい。
（委員）
・毎回言いたいことを言わせてもらったので、割とさっぱりしている。
・私も青森県の生まれでも育ちでもなくよそ者だから、そんなに青森は好きではなかったが、10 年以上住むと好きになるし、自分の子どもが、自分で青森の人だと思っているから、子どもが「青森大好き。」となれば、私も青森が好きにならないと、そして青森に良くなってもらいたい。
・青森市は県庁所在地ですので、青森のリードしていく、進んだスタイルみたいなものをやっていって欲しい。
（委員）
・こういう委員会等に参画させていただいているが、青森の街は嫌いじゃない。
・なによりも子どもに関わる仕事してるので、子どもたちが活き活きと過ごせる街であって欲しい。
・今年、市の健康福祉要覧を見たときに、青森市の就学前の子どもの率が４．０１だった。
・100 人の村にすると 4.01 人しか就学前の子どもがいない。
・今年、総務省が発表した国の平均は、4.7 人で、それよりもはるかに下回った小さな集落の中で 4.01 人しかいなくなり、それを今一所懸命保育しているのだが、どんどん寂しい街になっていくのかと思う中で、こういう総合計画に携わり、今後の教育の計画や福祉

の計画にも反映されていくと思うので、そのときにも一番上位にあるこの計画そのものが活き活きとしたものとして伝えられていくことを願っている。
（委員）
・18 年ごとに移動しており、北海道 18 年、東京 18 年、青森県 18 年目に、北海道に帰るつもりが 8 年間違って八戸に。八戸に 24 年間、今青森に戻って 8 年経った。
・八戸に居たときも、八戸の基本計画などを作ったが、八戸は次男坊の勢いで何でもやる。青森市は長男だからちゃんとしなくてはいけないという、そんな感じを街がもっていると思った。
・でもチャレンジという進取の気性は、やはり青森市は歴史があるし、大事にしなければいけないなというのは個人的には感じている。
・今回はこういう機会があり、社会教育とか良くしようといろんなことやった。
・今夜、西部市民センターでワークショップやっていて、他の日にも沖舘の市民センターでもやっていて、高校生とか年配の方とか色々な年代の方が入ったりして、言いたい放題 2 時間で面白い。最後記念写真を取ったりとか、毎回楽しくやっている。
・そういう草の根の市民の声を大事に聞く活動を、地道にでもやっていきたい。
・みなさんに色々ご意見をいただき、青森も知らないことがいっぱいあったので参考になった。改めてありがとうございました。
・以上を持って、分科会を閉会させていただきたい。